

「ゆっくりと左に動かしてください。」インストラクターの指示に合わせてリモコンを操作する。そしてドローンも滑るように左へ飛ぶ。屋内ではあるが、ドローンが自由に飛ばせるほど広い場所だ。ここはドローンスクールジャパン東京校。世界最大のドローン教習施設。今、多くの人がここに仕事の研修としてドローンの操作を学びに来ている。

「建設関係の人が多いですね。」と語るのは株式会社ハミングバード取締役の鈴木伸彦氏。インフラ点検など、危険な作業でドローンを用いるそうだ。ドローンは用途によって種類も異なる。そのため、ここでは撮影用の小さなドローンから、農薬散布用の大きなドローンまで、40機近いドローンを配備している。個々人の目的に応じて独自の訓練を受けられるのが特徴だ。

ドローンなんて簡単に操作できる。初めは多くの人がそう考えているそうだ。私も同じように簡単だと思っていた。しかし実際に操作してみると、これが案外難しい。まず、前進、後退、右、左、上昇、下降、旋回など多くのリモコン操作を覚えなければならない。私は前進させようと思っているのに、何度か間違えて上昇させてしまった。さらに、ドローンは軽くて風に流されやすいので、同じ場所を保つのも簡単ではない。趣味で使うぶんには操作を失敗しても問題はないが、インフラ点検などの際には、小さなミスが大きな事故につながることもある。だからこそスクールで技能を学ぶ必要があるのだ。

ドローンスクールジャパンでは、個人的に申し込めば誰でも入学することができる。広さ3000坪の敷地内でインストラクターの指導を一对一で受ける。インストラクターが持っているリモコンでも操作ができるため、墜落する心配もない。さらに、実技だけではなく倫理に関する座学もある。ドローン操作の技術を盗撮などに悪用しないように、道徳的なことも学ぶのだ。そういった技能や知識をしっかりと学び、テストの基準を満たすことでようやく卒業することができる。

ドローンによって今まで人が行っていた仕事が失われるのは事実である。しかし同時に、ドローン操縦士の需要が高まっているのも事実である。プライスウォーターハウスクーパースという会社の計算によると、今後世界では14万人のドローン操縦士が必要とされているそうだ。「ドローンが出てきたから仕事がなくなった、ではなく、ドローンが出てきたから仕事が生まれた、となるような夢のような業界にしたい」と鈴木氏は語ってくれた。

編集後記

取材に行く前、インターネットで面白い記事を見つけた。「日本初！ドローンの高校」。最初は冗談だと思ったが、どうやら本当にあるようだ。普通の高校と同じようだが、ただ一つ異なる点があるとすれば、ドローンについて学ぶところだろう。生徒たちはいったいどんな高校生活を送るのだろうか。面白いと思うと同時に、それだけドローンに関する人材の需要が高まっているのだと強く感じた。こういったドローンスクールは今後も増え続けるだろう。

田中稔十